

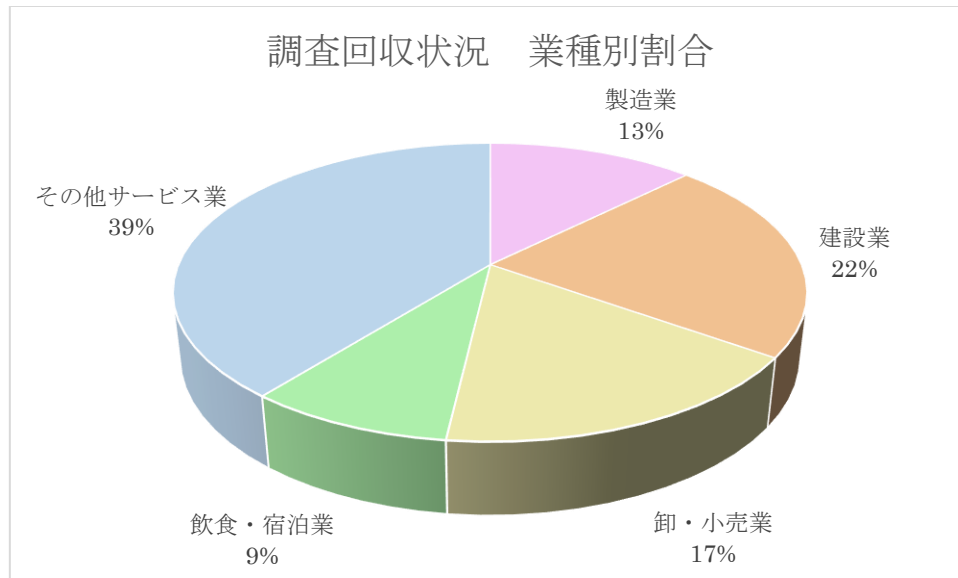
千歳市景気動向調査結果

調査期間：2024年7～9月の実績と2024年10～12月の見通しについて調査

調査方法：調査票を送付し、FAXまたはWEBにて回収

調査対象：千歳商工会議所会員及び特定商工業者

回収状況：135社



DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは

増加・上昇・好転の企業割合から減少・降下・悪化の企業割合を差し引いた値のことです。

この数字がプラスかマイナスか、また、その大きさにより景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

景気が「良い」の中には、「良いけど悪くなりつつある」などの考えも含まれるため、**業況判断DIは、景気の方角性を表すもの**です。

数値が上昇していれば、良い景況感（景気が良いと感じる企業の割合が増えたこと）を意味します。

本調査では前期（2024年4～6月）と比較した今期（2024年7～9月）の実績及び、今期（2024年7～9月）と比較した来期（2024年10～12月）の予測、今期（2024年7～9月）と前年同期の比較を掲載しています。

《 全体の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (4～6月)		今期実績 (7～9月)【前年実績】			来期予測 (10～12月)
業況	8.1	↓	▲5.2	【3.3】	→	▲2.2
売上	17.9	↓	11.9	【9.2】	↓	3.0
採算	▲4.1	↓	▲9.6	【▲12.5】	↓	▲15.6
原材料	▲74.8	→	▲77.8	【▲76.7】	↑	▲65.2
資金繰り	4.9	↓	▲8.1	【▲3.3】	→	▲7.4
労働時間	5.7	→	3.7	【3.3】	→	5.2
雇用状況	38.2	→	33.3	【27.5】	→	32.6

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

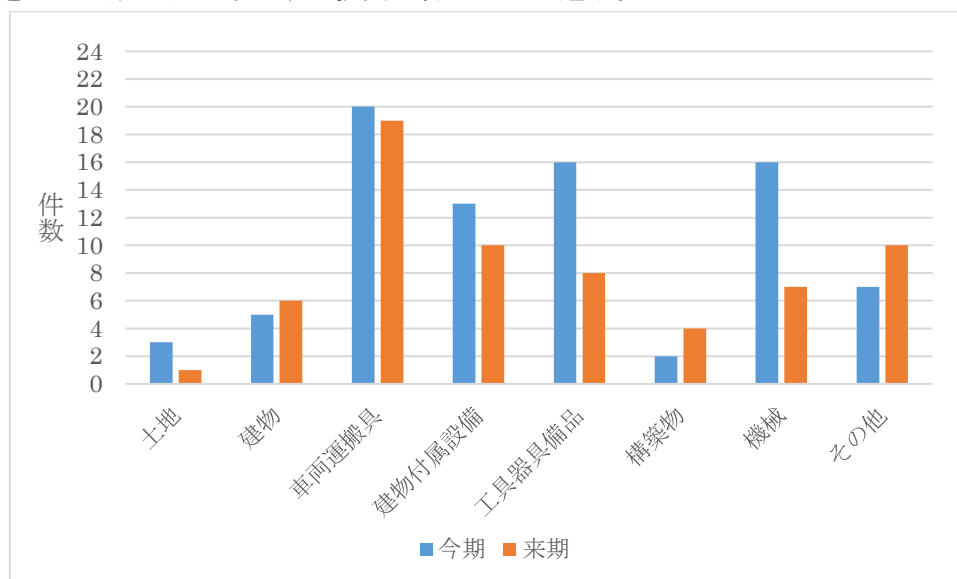
【設備投資調査】

前期(4～6月)設備投資をした企業は39.0%

今期(7～9月)設備投資をした企業は37.0%

来期(10～12月)設備投資を計画している企業は34.8%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 製造業の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (4～6月)		今期実績 (7～9月)【前年実績】		来期予測 (10～12月)
業況	▲17.6	↑	▲11.8 【37.5】	→	▲11.8
売上	11.8	↓	0.0 【25.0】	→	0.0
採算	▲29.4	↑	▲5.9 【6.3】	↓	▲11.8
原材料	▲70.6	↓	▲82.4 【▲81.3】	↑	▲52.9
資金繰り	11.8	↑	17.6 【18.8】	↓	0.0
労働時間	0.0	↓	▲11.8 【18.8】	↓	▲17.6
雇用状況	23.5	↑	29.4 【18.8】	↓	23.5

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

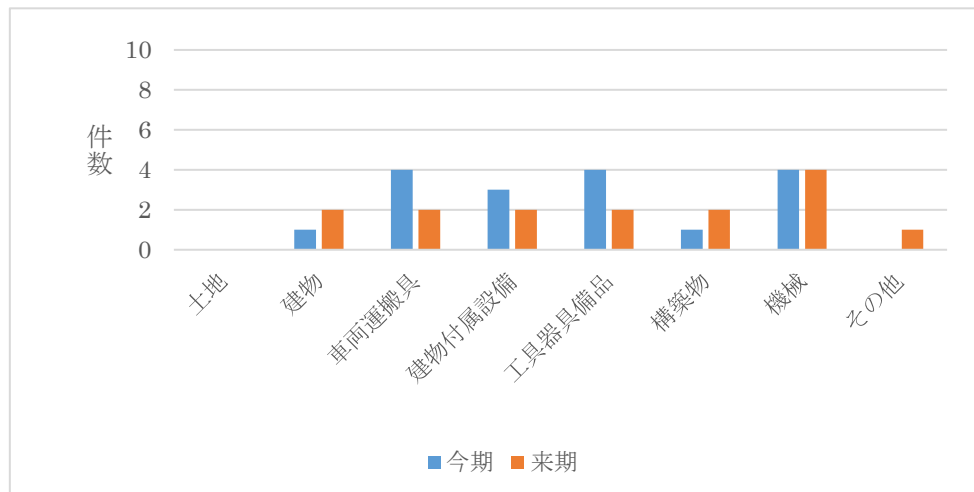
【設備投資調査】

前期(4～6月)設備投資をした企業は47.1%

今期(7～9月)設備投資をした企業は52.9%

来期(10～12月)設備投資を計画している企業は64.7%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 建設業の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (4～6月)		今期実績 (7～9月)【前年実績】			来期予測 (10～12月)
業況	12.5	↓	0.0	【▲4.8】	→	▲3.3
売上	4.2	↑	23.3	【▲14.3】	↓	10.0
採算	▲8.3	↑	3.3	【▲28.6】	↓	▲13.3
原材料	▲79.2	→	▲76.7	【▲81.0】	↑	▲66.7
資金繰り	4.2	↓	▲10.0	【▲19.0】	→	▲10.0
労働時間	4.2	→	3.3	【 0.0】	↓	▲3.3
雇用状況	66.7	↓	50.0	【 57.1】	→	50.0

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

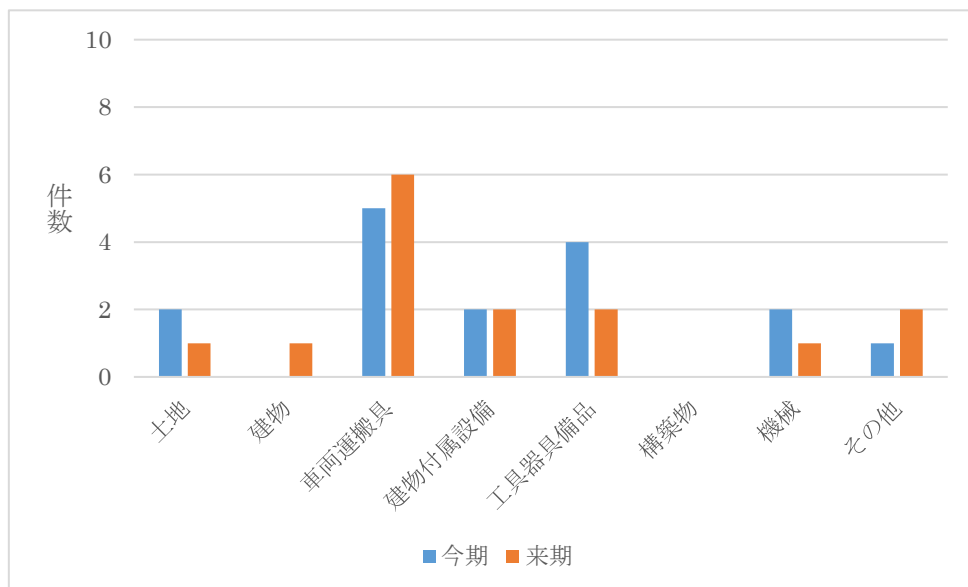
【設備投資調査】

前期(4～6月)設備投資をした企業は50.0%

今期(7～9月)設備投資をした企業は33.3%

来期(10～12月)設備投資を計画している企業は40.0%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 卸・小売業の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (4～6月)		今期実績 (7～9月)【前年実績】			来期予測 (10～12月)
業況	23.8	↓	▲8.7	【▲10.0】	→	▲4.3
売上	23.8	↓	17.4	【▲5.0】	↓	▲4.3
採算	4.8	→	0.0	【▲20.0】	→	0.0
原材料	▲81.0	↑	▲73.9	【▲75.0】	→	▲73.9
資金繰り	▲4.8	→	▲4.3	【▲5.0】	→	0.0
労働時間	19.0	→	21.7	【30.0】	↑	30.4
雇用状況	47.6	↓	34.8	【30.0】	→	34.8

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

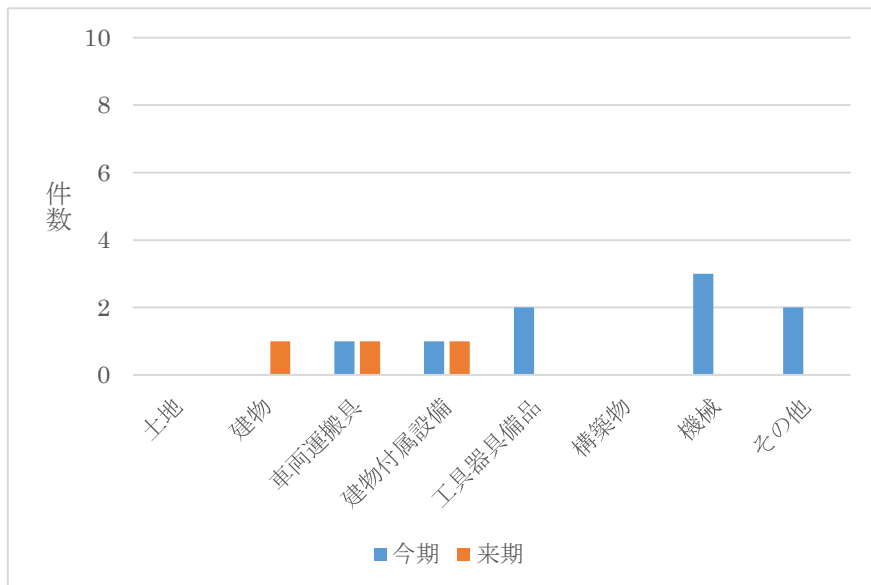
【設備投資調査】

前期(4～6月)設備投資をした企業は28.6%

今期(7～9月)設備投資をした企業は21.7%

来期(10～12月)設備投資を計画している企業は8.7%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 飲食・宿泊業の景気動向 》

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (4～6月)		今期実績 (7～9月)【前年実績】		来期予測 (10～12月)
業況	35.0	↓	8.3 【4.3】	↑	25.0
売上	40.0	↓	25.0 【21.7】	↓	8.3
採算	30.0	↓	▲25.0 【▲21.7】	↓	▲33.3
原材料	▲80.0	↓	▲100.0 【▲95.7】	→	▲100.0
資金繰り	20.0	↓	0.0 【▲17.4】	→	0.0
労働時間	30.0	→	33.3 【▲8.7】	↓	16.7
雇用状況	20.0	↑	41.7 【8.7】	↓	33.3

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

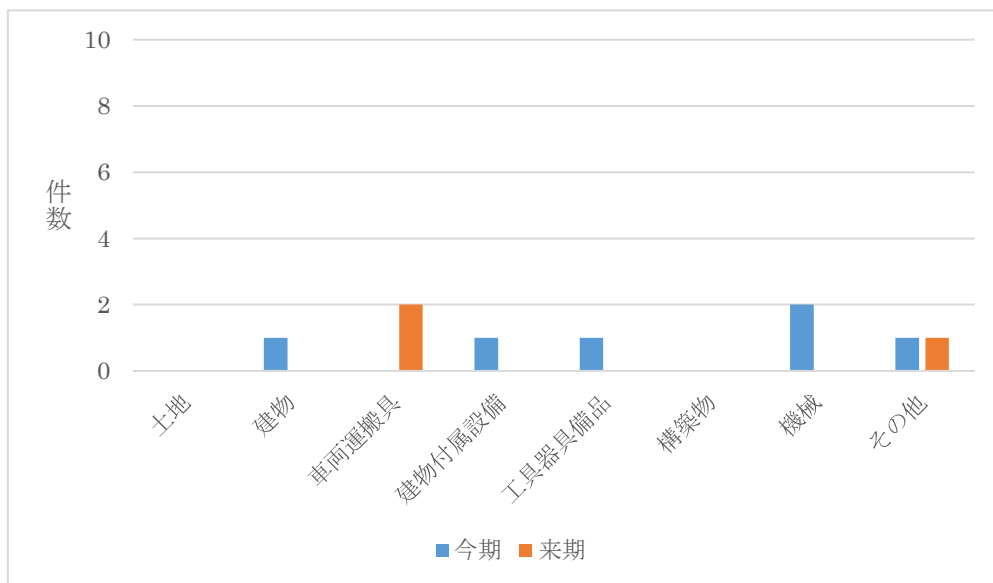
【設備投資調査】

前期(4～6月)設備投資をした企業は30.0%

今期(7～9月)設備投資をした企業は33.3%

来期(10～12月)設備投資を計画している企業は16.7%

設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 その他サービス業の景気動向 》

運送・生活関連サービス・観光関連サービス・理美容・不動産・その他が含まれます

【主要DI調査】

主要DI	前期実績 (4～6月)		今期実績 (7～9月)【前年実績】		来期予測 (10～12月)
業況	▲4.9	→	▲7.5 【0.0】	→	▲3.8
売上	14.6	↓	3.8 【15.0】	→	1.9
採算	▲12.2	↓	▲18.9 【▲2.5】	→	▲20.8
原材料	▲68.3	↓	▲73.6 【▲62.5】	↑	▲56.6
資金繰り	0.0	↓	▲18.9 【5.0】	↑	▲13.2
労働時間	▲9.8	→	▲5.7 【▲7.5】	↑	3.8
雇用状況	31.7	↓	22.6 【25.0】	→	24.5

表中の矢印・・・5ポイント以上の推移を上下矢印(↑・↓)で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印(→)で表示

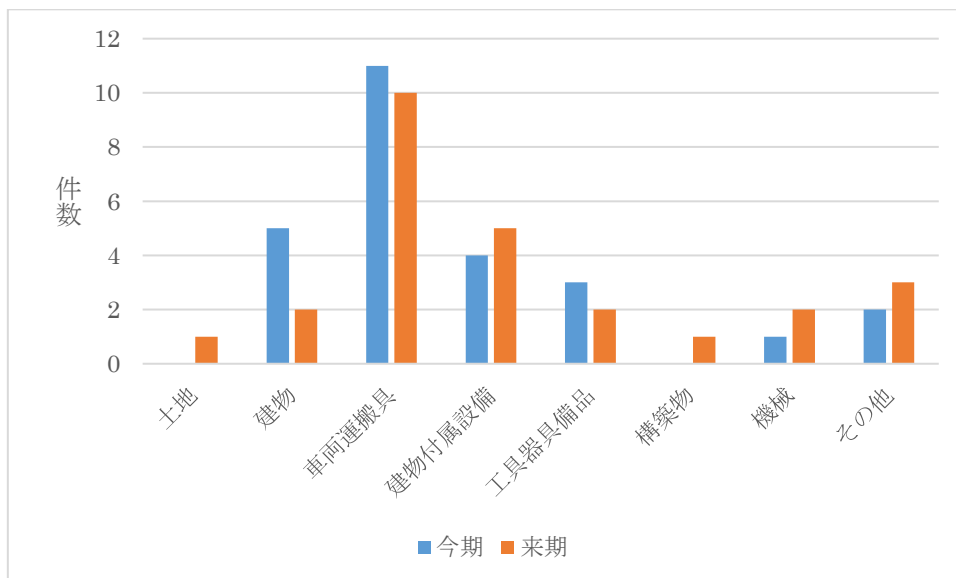
【設備投資調査】

前期(4～6月)設備投資をした企業は39.0%

今期(7～9月)設備投資をした企業は41.5%

来期(10～12月)設備投資を計画している企業は37.7%

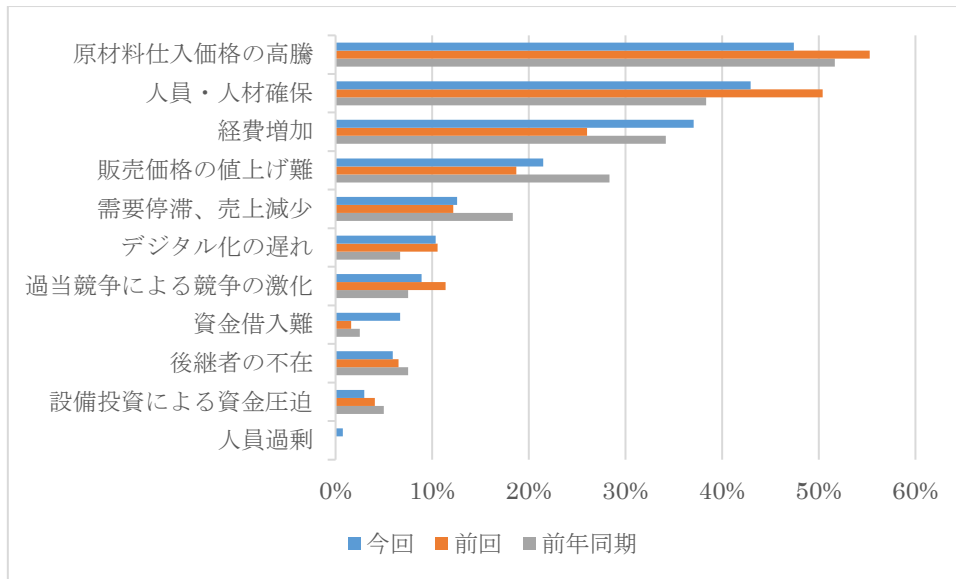
設備投資をした(する)企業のうち投資内容は以下の通り。



《 全体の経営上の問題点 》

今回の調査でも、経営上直面している問題点が多かったのは、前回に引き続き『原材料仕入価格の高騰（47.4%）』、次に、『人員・人材確保（43.0%）』『経費増加（37.0%）』が多い結果となりました。

前期と比較すると、『原材料仕入価格の高騰』は7.9ポイント低下、『人員・人材確保』は7.4ポイント低下していますが、『経費増加』は11.0ポイント増加となっています。



《 業種別の経営上の問題点 》

	製造業	建設業	卸・小売業	飲食・宿泊業	サービス業
1位	原材料仕入価格高騰	人員・人材確保	原材料仕入価格高騰	原材料仕入価格高騰	人員・人材確保
2位	経費増加 販売価格の値上げ難	原材料仕入価格高騰	人員・人材確保	経費増加	原材料仕入価格高騰
3位	人員・人材確保	経費増加	経費増加	販売価格の値上げ難	経費増加

《 観光関連の景況 》

観光に直接的に関わる業種及び企業を抜粋し調査しました。

対象事業者

市内の宿泊業、市内の観光関連業、市内の運送業、清水町・幸町周辺の飲食業、
新千歳空港及び周辺の観光関連事業者、支笏湖・モーラップ地区の事業者

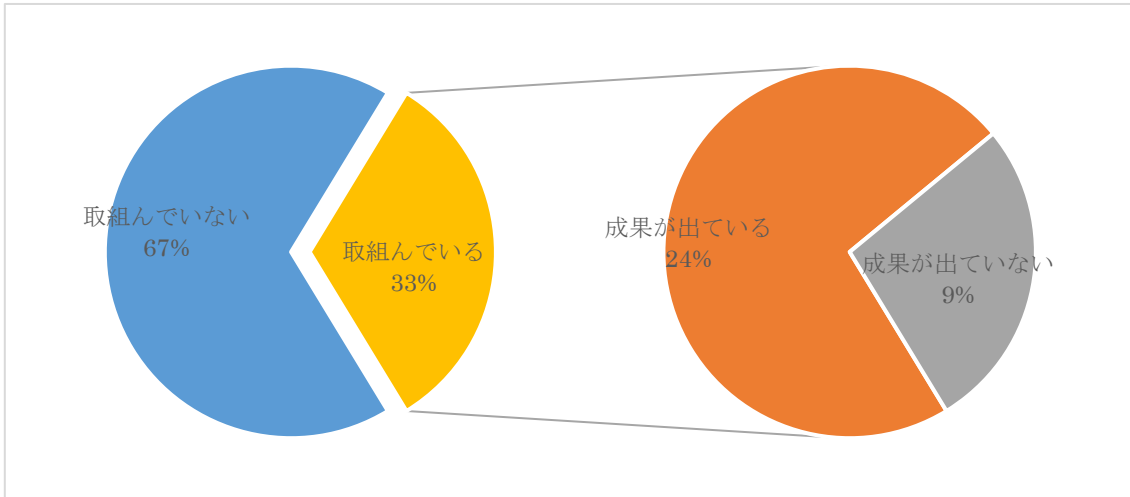
景気動向

主要DI	前期実績 (4～6月)		今期実績 (7～9月)【前年実績】		来期予測 (10～12月)
業況	14.3	→	16.7 【4.0】	↑	22.2
売上	28.6	↑	50.0 【28.0】	↓	38.9
採算	7.1	↓	0.0 【▲12.0】	↓	▲5.6
原材料	▲89.3	↓	▲94.4 【▲92.0】	→	▲94.4
資金繰り	7.1	→	11.1 【▲20.0】	↓	0.0
労働時間	10.7	↑	27.8 【▲8.0】	→	27.8
雇用状況	▲35.7	→	▲33.3 【▲12.0】	→	▲33.3

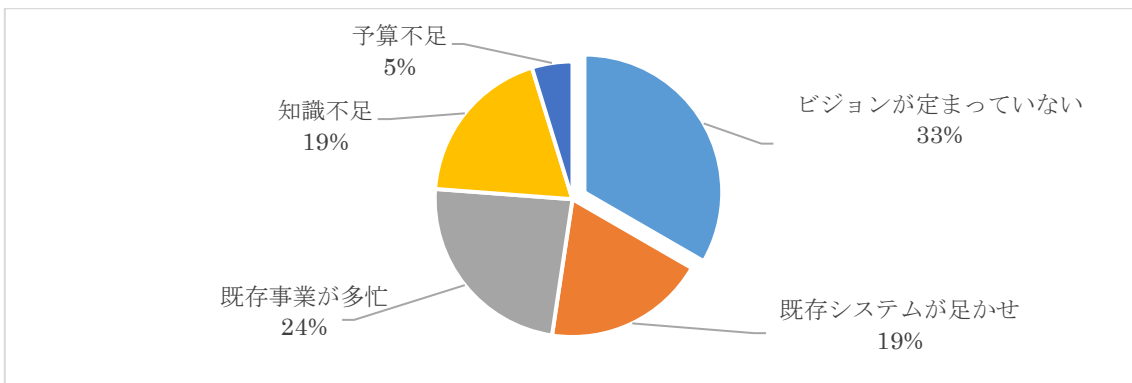
表中の矢印 5ポイント以上の推移を上下矢印（↑・↓）で表示
5ポイント未満の推移は横ばい矢印（→）で表示

《 DX の取組み 》

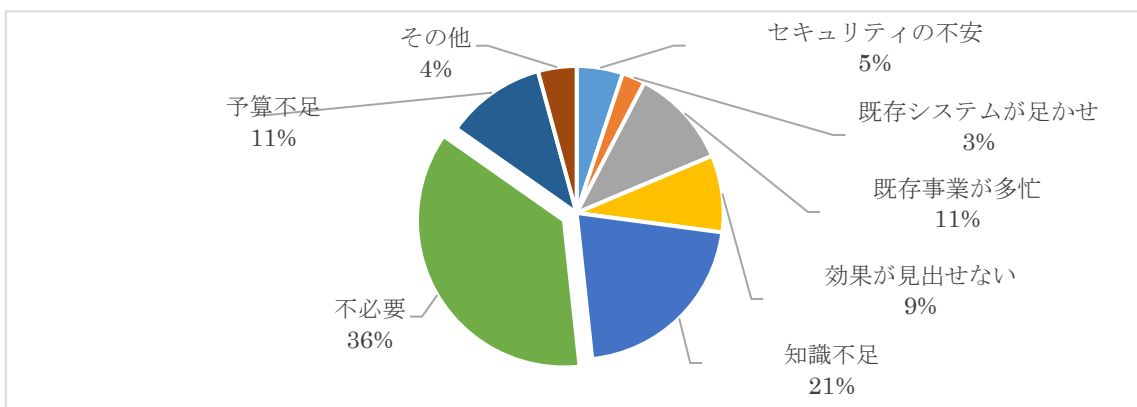
今回の調査では DX に取り組んでいる企業は 33%、取り組んでいない企業は 67%あり、成果が出ている企業は全体の 24%でした。



DX に取り組んでいるが成果が出ていない理由のうち最も多かった回答は『ビジョンが定まっていない (33%)』でした。



DX に取り組んでいない理由で最も多かった回答は、『不必要 (36%)』でした。



《 企業の声 》

今回の調査結果によると、全体の景気動向指数は前回の実績とは異なり、今期は下向きや横ばいの項目が多く見られました。特に、飲食・宿泊業やその他のサービス業では、業況の悪化が目立っており、原材料の仕入れ価格が高騰し、採算が取れず、業績が悪化していると考えられます。

また、全業種に共通する課題として、原材料の高騰、人員・人材不足、経費の増加が挙げられました。物価高が長期化する中で、企業は何度も値上げを試みても価格転嫁が追いつかず、苦しい状況にあるとの声もあります。

千歳市の今期（7～9月）の有効求人倍率は平均0.87倍で、令和6年1月以降は毎月1倍を下回っています。この状況にもかかわらず、企業は人員不足に直面しており、賃金上昇が採用難の一因となっていると考えられます。

人材不足に関して、当所では会員サービスとして生活情報誌「ちゃんと」に無料求人掲載を行っており（3回目12/20～1/10募集）、引き続き効果的な対策を講じていきます。

DXに取り組んでいると回答した企業は33%であり、そのうち約72%の企業は成果が出ていると回答しました。中小機構の調査によると、DXへの取り組みは、特に文書の電子化やペーパーレス化が進んでおり、76%の企業が成果を実感しています。

また、地価の上昇により、不動産物件や賃貸物件の高騰が続いており、店舗や倉庫の確保が困難に。また、立ち退き問題などもあり、企業の運営に影響を与えているとの声があります。

物価高騰については、他の市町村で実施されている支援策等を、当市でも実施してほしいという要望も寄せられています。

千歳商工会議所では、補助金や助成金などの情報をLINE公式アカウントで随時発信しています。また、企業ごとの課題解決に向けて、事業計画作成支援、経営支援、事業承継相談会などを実施していますので、ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

また、Rapidus株式会社や鹿島建設株式会社との取引希望がある企業向けに、会員情報の提供窓口を設置しています。取引を希望される企業は、商工会議所の公式ウェブサイトからエントリーをお願いします。

本調査にご協力いただきました企業の皆様、ありがとうございました。

次回調査は令和7年1月頃です。引き続きご協力の程よろしく願いいたします。